



妙高山の冠雪を仰ぎ見て、

願いがかなうように



秋が深まる中、寒さが近付き妙高連山の冠雪の便りが届けられる季節となりました。私共「高田西城病院」は、11月28日が創立記念日であり、今年で97周年を迎えます。3年後には、創立100周年を迎えることになり、誠に喜ばしいこととございます。その2020年は“東京オリンピック”開催の年でありますので、日本中が“五輪のこころ”で溢れ、全国民が一体となり、各競技の応援をしている光景が見られると思います。そのような熱い想いに負けないように、私共も、地域の中で住民に求められる、そして病院の理念である“こころの健康を守り、気軽に利用できる住民と共にある病院”づくりを続けていかなければなりません。そして、精神科医療の質を高めるために、職員一同、常に日々の研鑽を積み、努力をしていかなければなりません。

今年も、当院の中庭では、“こころ病む皆様の癒し効果”を目的として、第6回米作り体験を実施しました。7.5合のお米を収穫し、北城神明宮に奉納させて頂きました。また、当院の新潟県認知症疾患医療センターとも連携した「川室記念病院」における研究事業として、認知症の方々のための「稲作ケア」が2年目となり、その成果を上げることができました（その内容は、平成29年10月21日新潟日報大人プラスにも掲載されました）。第32回日本老年精神医学会では、東京都健康長寿医療センター研究所の岡村毅先生と宇良千秋先生と共に、また、日精協主催の第6回日本精神科医学会では、川室記念病院の鳥島作業療法士と学会発表をいたしました。来年は、認知症の方々が、住み慣れた地域で暮らしやすくなるために、「稲作ケア」を通じて、一般の健康の方々、障がい者の方々、認知症の方々との“共生社会”を実践・活動・研究していく予定であります。

また本年、当院では、「訪問看護ステーションキャスル高田」の充実化が果たされ、「糸魚川診療所」はもとより「こころのクリニック・上越妙高診療所」の外来患者も増加の一途を辿っております。医局では、新しく坂本聡先生、一谷英夫先生をお迎えいたしました。今後も地域の皆様のご要望に応え、より充実した外来機能を構築していきたいと思っております。そのためにも、職員一同が一丸となって、精神科医療福祉の質の向上を目指していただけることを念じて、新年度に向かっていきたいと願っています。皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成29年11月晩秋

医療法人高田西城会 高田西城病院  
理事長 川室 優



## ● 医師の紹介 坂本 聡先生

初めまして。平成 29 年 7 月から高田西城病院に赴任いたしました精神科医師の坂本聡と申します。東京慈恵会医科大学を平成 24 年に卒業し、同大学の附属病院で勤務をしておりました。

精神科は脳と心の問題を扱います。どのような経緯で心身の不調を生じるに至ったかを、身体面、環境面などの視点から総合的に理解していきます。私の場合は、人と接する仕事であれば心にも注目してみたいと考え精神科を志望しました。その後、実際の診療場面で様々な経験をさせていただきましたが、今でもいろいろなスタッフや患者さんから新しいことを勉強させていただいています。微力ではありますが、今後は上越での医療に貢献できるよう診療していきたいと思っております。

また、病気は患者さん本人にしか分からない辛さなどがあると思っておりますので、その症状をきつくないよう苦しめないようにしていく、寄り添うような医療を目指していきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いたします。



## ● 記念植樹 グループホーム道芝荘

平成 29 年 10 月 20 日、グループホーム道芝荘の新築移転を記念して、川室理事長、入居者、世話人等 17 名が参加し、桜の木「ソメイヨシノ」を植樹しました。

この桜の木は平成 29 年度の新潟県病院協会「緑の募金」緑化推進事業の補助金により購入したものです。グループホーム道芝荘の敷地内に 6 本の桜の木が植樹され、今後の成長を楽しみに見守っていききたいと思います。





## ●消防訓練

10月27日に上越南消防署立会いのもと、火災発生時に迅速かつ安全に患者さんを避難誘導すること、また、職員の防災意識の向上を図ることを目的に消防訓練を実施しました。訓練には約60名の職員が参加し、認知症病棟1階の活動室で夜間に火災が発生したという想定のもと、夜勤者中心に初期消火訓練、消防署と各部署への通報訓練、ストレッチャー等を使った患者搬送避難訓練に取り組みました。

消防訓練が終わると、上越南消防署の方から訓練用の「消火器」で使い方を練習したり、「応急担架の作り方」や「応急手当のやり方」についてアドバイスをいただきました。その他にも11月10日に、大きな災害を想定し災害発生直後の要請・報告等の情報伝達の方法について、全職員対象に緊急連絡伝達訓練を実施いたしました。



## ●福祉避難所 ショートステイお堀ばた

当法人のショートステイお堀ばたは、災害時における「福祉避難所」に指定されています。今年の7月と10月の大雨が降った時には、実際は避難者の受け入れはありませんでしたが、市の災害対策本部より開設の要請があり、準備を開始し、受け入れ体制を整えました。

10月27日に行われた消防訓練の時には、併せてお堀ばたの福祉避難所の開設、運営訓練も実施しました。市から連絡調整員の方も来られ、どのような流れで、どう行動すれば良いのか、物資にはどのような物があるのかを改めて確認したり、テイルームに避難スペースを確保し、実際にダンボールベッドの組み立てを行いました。

災害はいつ起きるか分かりません。災害発生時に慌てることなく速やかに体制を整え避難すること、また避難者の受け入れができるように平常時からマニュアルを確認したり、訓練を実施して備えたいと思います。



## ●セクション紹介

## 薬剤部

当院では、入院処方、外来処方ともに院内薬局で調剤を行っており、1日当たりの処方せん枚数は、外来80～90枚、入院60～70枚です。薬局では、これらの調剤・鑑査、服薬指導を中心に医薬品の適正使用のための業務を薬剤師4名、調剤補助2名、合計6名で分担して行っています。

精神疾患の治療は、薬物治療と心理社会的治療を組み合わせることで高い治療効果が得られることが知られており、薬物治療は、「リカバリー※」を支える基本であり、良好な服薬アドヒアランスの維持が再発の予防や安定した状態を保つために重要となります。

薬局スタッフは、「良好な服薬アドヒアランス維持」のため

- 1) 患者さんが納得して薬を飲むように関わる
- 2) 患者さんが自らの意思で治療に取り組めるように関わる
- 3) 患者さんが必要な支援を受けられるよう適切な職種につなぐ
- 4) 患者さんが笑顔になれるように関わる

このようなことを大切にしながら患者さんと接しています。また患者さんだけでなく、医師、看護師などの病院スタッフとも前述したことを共有できるよう連携を取っています。

このような意識のもと、日々の業務を行っていますが、薬局が取り組むべき課題はたくさんあります。今後は、当院を利用するみなさんが安心安全な薬物治療を受けられるように、そして職員が充実感を持ちながら支援を継続できるように多職種協働で新たな取り組みを進めていく必要があると考えています。

みなさんのご指導をスタッフ一同お待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

※精神疾患治療において「リカバリー」という言葉は“障がいの影響で社会の中での生きにくさや生活のしにくさがあっても、支援者と一緒に症状をコントロールしながら、夢や希望を持って自分らしく生きる”という意味で使われています。



## ●編集後記

高田西城病院 広報情報編集委員会



すっかり冬も本番となりました。最近では季節の移り変わりが激しいような気がします。これも地球温暖化の影響でしょうか。地元出身者とはいえ、雪道の運転は緊張するもので、毎年憂鬱な気分になるのですが、年々装備を整えたりしています。そうしているうちに技術が進歩して、自動運転車が当たり前になって、庶民にも手の届く価格になってくれることに期待しつつ、早く春が来ることを願っています。(編集 O)

バックナンバーはホームページ(PC、スマホ)よりご覧いただけます。

<http://www.nishishiro-hp.or.jp/>

高田西城病院

検索

